

①—2 取り組むべきこと 新旧比較

旧	新
<p>◆連綿とつづく堺の歴史・文化の保存と継承 堺の文化遺産や歴史的資料を保護し、次世代に継承する。また、市民が継続的に活用できるように支援する。</p>	<p>① 堀、南大阪における歴史・文化及びアルフォンス・ミュシャ等所蔵作品の資料収集、保管、展示、利活用の基礎となる調査研究を推進する。</p> <p>② 資料や研究成果のデジタル化により、全世界と新知見の情報共有をおこなうことで、活発な資料活用や調査研究を実施する。</p>
<p>◆世界遺産「百舌鳥古墳群」の価値理解 世界遺産「百舌鳥古墳群」の価値を、最新の研究成果を基に、分かりやすくかつ深く広く学べる施設とする。</p>	<p>③ 収集方針に則り、堺の歴史・文化に関する資料を収集し、適切な環境で保管する。全ての人が安心して利用できるバリアフリーな施設の管理、事業の運営をおこなう。</p> <p>④ 堀の歴史・文化を活用した地域との協働を進めるプログラムを提供し、地域活性化に貢献できる施設・体制を整える。学校教育のカリキュラムに応じた体験を準備する。</p>
<p>◆堺の歴史・文化に関する普及と教育、活用 堺の歴史・文化やその背景について多面的に学べ、思考を促す教育プログラムを提供する。学校教育のカリキュラムに応じた博物館体験を準備する。</p>	<p>⑤ 堀の歴史・文化やその背景について多面的に学べ、思考を促すプログラムを提供する。</p> <p>⑥ 堀市内の歴史文化関連施設の中核館として、関連施設との連携や価値の共創をおこなう。</p>
<p>◆全ての人が学び、楽しめる展示 文化財やミュシャ・コレクション等を分かりやすく展示することで、全ての人が学び、楽しめる展示を実現する。</p> <p>年齢や背景、障害の有無を問わず、全ての人々に学びの機会を提供できるユニバーサルミュージアムを整備する。</p>	<p>⑦ 本市の歴史資料およびミュシャ・コレクションをはじめとする美術資料を一元管理することで、従来にない多彩な展示や体験活動をおこなう。</p> <p>⑧ (仮称) 堀ミュージアムを起点とし、デジタル等も活用し、次なる学びにつながる市内周遊・観光を誘発する仕掛けをつくる。</p>
<p>◆周遊を促進する施設 来館者に市内の歴史文化資源や環濠エリアへの周遊を促す施設とする。博物館機能の充実により、市外他施設との区別化を図る。</p>	<p>⑨ 全ての人が学びの機会を享受できるユニバーサルミュージアムを整備する。</p> <p>⑩ アジア太平洋無形文化遺産研究センター (IRCI) と連携し、堺・日本の無形文化遺産の発信をすすめる。</p>
<p>◆学術的研究の推進 堺・南大阪における歴史研究の拠点機能をもたせ、展示等に反映する。</p>	
<p>◆地域との連携</p>	

堺の地域特性を反映した展示やプログラムを実施し、地域活性化に貢献できる施設として展開する。

◆環境に配慮した設備

可能な限り地球環境に負荷が少ない設備を導入し、持続可能な博物館をめざす。

◆デジタル化と情報発信

デジタル化を推進し新たな展示方法で訪問者の興味を惹きつけ、幅広い層に堺の魅力を発信する。

◆国際交流と協力

アジア太平洋無形文化遺産研究センター (IRCI) と連携し、堺・日本の文化を国内外に発信する。

また、海外の文化を紹介し国際交流を推進する。

◆安全安心な施設設備

災害に耐えうる施設とし、災害発生時には、地域の被害状況に応じた文化財レスキューが可能となる体制を備えること。

◆堺市内の関連施設との連携

堺市内の歴史文化関連施設の中核館として、また、歴史文化資源の周遊を促進するために、関連施設との連携や価値の共創をおこなう。